



100年前の原始性が感じられる森林を復活させよう

ニュースレター

野幌「森林づくり塾2015」

石狩地域森林ふれあい推進センター
TEL: 011-533-6741
FAX: 011-533-6743

第2回「森林づくり塾2015」を開催しました

苗木について勉強しよう

『吉野スギの造林失敗が育種の始まりだった！！』

第2回森林づくり塾を8月1日、林木育種センター北海道育種場で開催しました。今回のテーマは、森林づくりの基本である苗木に注目し品質改良等の研究内容について主任研究員矢野慶介氏に講師をお願いしました。

午前中は、日本における造林の歴史から始まり、明治時代に当時のブランド品種として有名だった吉野スギを各地に植栽したところ、それらの多くが失敗に終わったことが、日本の林木育種に着手するきっかけになったなど、興味深い話がありました。その後、造林に適した種苗の利用を定め、森林の育成を促進するため1939(昭和14)年に「林業種苗法」が制定され、大きな改訂を経て、現在も育種事業の大きな柱となっていることの講義がありました。

林木育種事業を実施するための採種園が造成されている理由、そしてそこから採種される球果から精選された精英樹で造林された次代検定林の意義等について力説されていました。実際に使用している調査用具も紹介され、休憩時には塾生の皆さんも興味深く手に取ったりしていました。また、育種センター内のホールは、小さな展示施設も兼ねており、普段みたことのない巨大な球果や品種登録された材幹などが見やすくディスプレイされており、普段入ったことのない塾生は、これらも興味深く見学していました。

午後からは、フィールドワークとして育種場構内で、様々な研究されている展示林の一部を見学しました。最初は、コンテナ苗の育苗畑、その後、初期成長に優れたヨーロッパトウヒと荒地地等への環境適応性に優れたアカエゾマツを人工交配した「ハイブリットウヒ」の展示林木質バイオマス生産に適したヤナギ品種の開発として、オノエヤナギとエゾノキヌヤナギを対象に開発を進めている検定試験地を見学しました。ここでは、材積成長に優れ、材の容積密度とセルロース含有率の高い品種を選抜していることなどの説明がありました。植栽後3年で、既に数10m以上もの樹高成長していることに一同驚きを隠せませんでした。次に開発品種として、平成16年度に品種登録された「北のパイオニア1号」の展示林を見学しました。母樹をグイマツ精英樹のルモイ1号、花粉親をカラマツの諏訪14号とした家系で、野鼠に対する抵抗性があるグイマツ雑種F1の中でも初期成長が良く幹の通直性に優れるなどの説明がありました。

普段、あまり知る機会のなかった林木育種事業の生い立ちを知ることができ、また今まで見ることもなかった様々な展示林を見学することができ、塾生の皆さんも林木育種の重要性を感じた1日でした。



講師の主任研究員 矢野氏



展示ホールに見入る塾生

